
成人保健看護演習、成人保健看護実習Ⅱの教育活動

赤嶺伊都子（成人保健看護演習・成人保健看護実習Ⅱ/成人保健看護領域）

教育上の課題と工夫

2021年4月の新型コロナウイルス感染症流行により、成人保健看護実習Ⅱで予定していた多くの実習施設・実習病棟での臨地実習が受入停止となった。急遽、実習受入れ可能な実習施設・実習病棟へ実習依頼・調整を余儀なくされた。幸い、実習施設の理解と協力により新たな実習施設・実習病棟を確保でき、11月～12月の2クール（7グループ・約40名）の学生が臨地実習に参加することができた。2022年1月～2月は実習を含めて全ての講義、演習、実習が全面遠隔となったことから、領域教員とのディスカッションを重ね、アイデアを駆使・集結し、遠隔演習、実習を行った。その際に、ZoomやTeamsなどを駆使し、遠隔での看護過程演習、シミュレーションによる口腔・鼻腔吸引、PowerPointを利用してパンフレットを作成、セルフケア支援、技術試験を遠隔で実施した。また、遠隔実習では模擬事例のカルテを作成し、Teamsを活用して患者の状況や検査結果などの情報を毎日のカルテ情報としてアップし、毎朝学生はカルテ情報を確認して、患者の状況を把握し、グループ毎に教員が患者役として遠隔でのシミュレーションを実施した。シミュレーションでの模擬患者の反応や情報を記録し、看護過程を展開する実習を行った。実施にあたって、教員間で遠隔技術や、シミュレーションへの理解や技術などの課題があったが、お互い情報共有・連携・協働により実施することができた。

2022年度においてもコロナ禍での演習、実習であった。感染対策をしつつ演習を展開した。コロナ禍前は1か所の演習室で1クール3～4グループ（18名～24名）の学生が集合して説明を受けていた演習が、学生のコロナ発症による演習、実習への影響を考慮し、教室を数か所に分け、学生はそれぞれグループ毎に各自のパソコンから遠隔で全体説明に参加した。吸引器などの設備が必須の演習のみは成人演習室にて行い、ゴーグル着用し、感染対策を徹底して実施した。また、セルフケア支援の演習については、アクリル板の透明パネルを購入・設置し、学生同士パネル越しに向き合い、作成したパンフレットを用いて指導を行う方法など工夫した。実習においては、実習施設での実習受入れが再開し、対面により実施していた事前の実習調整をZoomで実施する施設も多かった。また、コロナ禍前は午後まで行っていた実習が、ほぼすべての実習施設において感染対策をした昼食やカンファレンス場所の確保が困難な理由から、午前中のみの実習となった。午後は学内あるいは自宅に戻り、Zoomを活用して病棟カンファレンスや日々のカンファレンスへの参加や実習記録の指導を行った。

2023年度は、感染症5類移行により感染対策は緩和されたが、演習・実習開始2週間前からの行動やマスク着用などの感染対策は継続しながら、演習、実習を行った。体調不良の学生が自宅からZoomによりグループワークに参加できるように工夫した。

コロナ禍の教育活動を振り返って

今後は、コロナ禍後の標準予防感染対策を行いながら、学生や教員がコロナ禍で獲得した遠隔技術を今後も継続して活用することになると考える。また、さらなる遠隔技術を活用・応用した効果的な演習プログラムの開発や、効果的教育方法等について教員へのFDと協働が求められる。
